

大学生テニス経験者の、プロテニス観戦の阻害要因に関する研究
～テニスサークル所属者を対象にして～

A study about disincentive of watching professional tennis in Japan focusing on university students who are belonging to tennis clubs.

1K07B085-9 小林 大助

指導教員 主査 原田宗彦先生 副査 松岡宏高先生

1. 研究目的

研究目的の第一は、大学生のテニス経験者における、プロテニス観戦の阻害要因を明らかにし、スポーツ参加者をスポーツ観戦者へと導く方法についての提言を行う事である。第二は、プロテニス観戦意図を持つ大学生の、プロテニス観戦に求めるものを調査し、大会観戦を促す、より効果的なマーケティングの方策を探る事とする。これらを明らかにすることで、大学生テニス経験者の現状を把握すると共に、今後大学生のプロテニス観戦者を増加させるためには、どのような方法をとる事が効果的であるのかを検討する。

2. 研究方法

調査方法 質問紙法

調査日 2011年11月18日～11月25日

調査対象 早稲田大学のテニスサークルに所属する大学生

回答数 129

3. 結果と考察

今回のテニス経験者の8割以上が、週に1回以上テニスをする積極的なテニスプレイヤーであることがわかった。また、7割を超える大学生がプロテニス観戦に興味を示した。プロテニス観戦の阻害要因に関しては、女性の方が「観戦潜在」「観戦拒否」「サービスクオリティ」「ゲーム」「運営」「情報」のどの変数に関しても、平均値が高く、プロテニス観戦に積極的でないということがわかった。また、男性よりも、女性の方が「時間がない」項目の平均値が高く、プロテニス観戦のよりも他の事（バイト等）を優先させている事が明らかになった。「個人戦に参加」している大学生と「個人戦に参加」していない大学生では、「ゲーム」変数を除いて全ての変数で有意な差があった。このことから、個人戦に参加している大学生はよりプロテニス観戦意欲が高いことがわかった。大学生テニス経験者の7

0%以上はソーシャル・メディアのツイッターやミクシィを利用していることがわかった。また、日頃プロテニス情報を収集しているの大学生はそれほど多くなく、情報収集しているのは、テニス歴の長い大学生であった。

4. 結論

大学生テニス経験者の中では、実際にプロテニスを現地で観戦したことがある人は少なかったものの、実際に観戦してみたいと思っている人は65%を越えていた。阻害要因の分析結果から、男性に関しては「時間がない」いわけではなく、「誘ってくれる友人」もおり、「戦術にも精通して」いるが、「なんとなく機会がない」というのが現状のようだ。グループ割引チケットのような、一つ何かきっかけがあれば、観戦者となる可能性は大いにあると言える。一方、女性は「時間がない」に代表されるようにアルバイトや趣味・サークル活動に忙しくしているようである。「情報」因子の平均値が低かったことから、余暇時間を過ごすのに「テニス観戦」という選択肢は含まれていないようだ。このことから、いかに女性グループに情報を流すか、ということが課題となってくるであろう。方策として、積極的にソーシャル・メディアを利用して、大会の情報を発信していくことが求められる。また、チケット料金について、高いと感じている人が多いので、複数で割引できるような新たなチケット形態を提案していく必要があると考えられる。テニス経験者の中で観戦経験のある人は、直接観戦することに様々な魅力を感じて再観戦したいと考える。日本に数多くいる大学生テニス経験者の中から、プロテニス観戦者を増やせば、テニス界の発展につながっていくと考える。また、